

3年C組 社会科 単元設計・学習指導案

指導者 高橋 祐貴

1 日時（場所） 12月14日（火） 14:30～15:20（3年C組教室）

2 単元設計（単元名：『主権者』としての私たちに求められることとは？）

(1) 本単元で育成したい自立と共生の力

○広い視野で物事を客観的に判断する力

○よりよい社会や自分の姿を思い描く力

○現在、そして将来にわたり社会的・経済的に公正な社会を築こうとする力

(2) 単元目標

○既存の政策の目的や内容等について調べることを通して、様々な政策が人々の生活を保障する国民福祉の観点に立って行われるべきものであることを理解することができる。

「知識及び技能」

○既存の政策を多面的・多角的な視点から批判的に考察していく中で、自己が持つ判断基準について振り返って認識したり再構成したりして、自己の意見を表現することができる。

「思考力、判断力、表現力等」

○自分と異なる意見を聞いたり多様な他者と関わったりすることの有用性を見だし、よりよい政策のあり方について主体的に追究しようとする。

「学びに向かう力、人間性等」

(3) 重点目標

＜本質的な問い＞

「主権者」として政治や社会のあり方について考える際に重要なことは何か？

＜永続的な理解＞

現代社会の中で起こっている様々な問題に対して、政府は様々な政策を行っている。政策とは、人々の豊かな生活を維持していくために決定されるものであり、社会で起こっている問題解決の方法であるといえる。私たちは「主権者」の一人として、その政策が本当に人々の豊かな生活の維持につながっているものであるかを見極め、政治のあり方を判断していくことが求められている。そのためには、まず社会で何が起きているのかに関心を持ち、政策について既知の知識や経験を基盤として多面的・多角的な視点から批判的に考察・判断する力の育成が重要となる。また、その際に「そこには不在の他者」の存在を想定し、誰が問題への決定権を持つ「当事者」になるべきかを考える「当事者意識」を高めることも必要である。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既存の政策の目的や内容等について調べることを通して、様々な政策が人々の生活を保障する国民福祉の観点に立って行われるべきものであることを理解している。	既存の政策を多面的・多角的な視点から批判的に考察していく中で、自己が持つ判断基準について振り返って認識したり再構成したりして、自己の意見を表現することができる。	自分と異なる意見を聞いたり多様な他者と関わったりすることの有用性を見だし、よりよい政策のあり方について主体的に追究しようとする。

(5) 評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
あなたは、「若者のつぶやき」という多様な世代の人たちが政治や社会問題に関して意見し合う新聞のコラムで、中学生の一人として意見文を掲載してほしいと頼まれました。テーマは、『18歳以下への10万円相当の給付』政策に対するあなたの思いとよりよい政策のあり方についてです。様々な立場である読者に向けて、説得力のある主張を分かりやすく伝えることを意識しながら、意見文の型(本稿3の(3)のイを参照)を基にして、自分の考えを述べてください。	・発表・話し合いの様子 ・ロイロノート LOPP

＜パフォーマンス課題の予備的ルーブリック＞

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	Bの規準を満たした上で、多様な立場の人の存在を提示しながら意見を述べるとともに、意見文の構成を論理的な文章になるように工夫している。	Bの規準を満たした上で、自分自身の考えを評価・改善し、よりよいものにしようとしている。
B	意見文の型を基に、判断基準の優先度や自己の考えの根拠を具体的に示したり、自分の考えへの反対意見を想定したりして、意見を述べる能够做到ている。	級友との議論の内容を振り返りながら、よりよい政策のあり方について自分なりの考えを持とうとしている。
C	意見文の型で示した内容を踏まえて、自己の考えを述べる能够做到いない。	よりよい政策のあり方についての自分の考えがまとまっていない。

(6) 指導計画（全6時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価基準（評価方法）
1 2	「10万円相当の給付」政策の内容についての考察を通して、様々な政策の社会的意味や意義について理解する。 - 次時以降の議論を活性化させるために、政策に対する自分の意見を書く。	知 態		- 政策の社会的意味や意義について理解している。（ロイロノート） - 単元全体に関わる問いに対する自分なりの意見を持とうとしている。（ロイロノート）
3	「特別定額給付金」に関する資料を分析・検討し、意見を述べ合うことを通して、判断基準の多様性に気付く。	思		級友との意見交換を通して、判断基準の多様性について考えている。（ロイロノート）
4 5 本時	「10万円相当の給付」政策についての議論を通して、自己が持つ判断基準を振り返って認識したり再構成したりして、政策の妥当性を考察・判断し、自己の意見を表現する。	思 態		- 判断基準の見直し、再構成を行い、政策の妥当性を考察・判断して意見を述べている。（ロイロノート） - 多様な他者と関わったり意見を聞いたりすることの有用性を見だし、話し合っている。（行動観察）
6	・パフォーマンス課題	思 態	○ ○	・パフォーマンス評価 ・パフォーマンス評価

3 本単元と研究主題との関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒（32名）は、アンケートによると「社会科の授業が楽しい」と回答する生徒がほとんどであった。その理由を問うと、「調べたことが知識となって身に付き達成感があるから」「友達との話し合いで新しい気付きがあったり、いろいろなものの見方ができるようになったりするから」などが挙げられていた。また、これまでの実践を通して、現代社会に見られる課題を扱った単元や現実世界に起きている状況を模写したり、シミュレーションしたりするパフォーマンス課題の実施が効果的だと回答した生徒も多く、生徒自身が実社会とのつながりを実感しやすい内容に学習の意義を感じているといえる。

しかし、先日（2021年10月）の衆議院議員選挙を前にした生徒に「衆院選の投票日がいつか知っていますか」という問うたところ、半数の生徒が「知らない」と回答したり、「どの政党の政策に興味・関心がありますか」という問いに対し「そもそも政党を知らない」と答える生徒も一部いたり、自発的に政治や社会問題について考えようとする意欲は高いとはいえない。持続可能な社会の実現に貢献する実践者とは、「当事者意識」を持って未来社会のよりよい姿を構想しようとする者である。本単元を通じて、政治や社会を見つめる際に生かせる判断基準について考えさせ、主体的に政治や社会に参画していこうとする意欲や態度を涵養していきたい。

(2) 単元について

本単元は、国の政治や財政の学習後に位置付けたものである。「18歳以下への10万円相当の給付」政策を教材として取り扱い、その妥当性について考察・判断することを通して、これからの社会に必要な政策を見定めるための自分なりの判断基準を見いだしたり、よりよい政策のあり方を構想したりしようとする態度を養うことをねらいとしている。

「18 歳以下への 10 万円相当の給付」政策については、様々な立場の人のそれぞれ大切にしている価値観やそれに基づいた主張によって対立が生じている社会的事象である。今回、それを教材として扱ったのは、『国民の意思が反映された国政の重要性』や『国民の生活と財政の役割』といった既習内容を生かした追究が行いやすいことや「生徒が様々な立場の人の考えを知ったり、聞いたりしやすく『当事者意識』を持って追究していくことが可能であること」が理由である。本単元の学習を通して、現代社会を捉える見方・考え方を働かせ、よりよい判断基準に基づいた議論を行っていきけるようにすることで、深い学びの実現を目指したい。

(3) 「深い学び」の実現に向けた指導の工夫について

社会科の授業において深い学びを実現するためには、「社会的な見方・考え方」を用いた考察・構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が重要である。本単元の学習で「深い学び」を実現するために、以下のような指導の工夫を行う。

ア 政策の妥当性を検討する学習を通して、「政治的リテラシー」を涵養する単元設計

「政治的リテラシー」とは、「様々な立場の人たちに思いをはせつつ、政治や社会問題について批判的に考察し、より望ましい政治や社会のあり方を構想することができる資質・能力」であるといえる。そして、それを高めていくためには、多様な意見を一つにまとめることを目標にするのではなく、政策についての他者との議論を通して自己の判断基準を改めて認識し、洗練させていくことで、より確かな意見の形成を可能にする学習過程の充実が重要である。そこで、学習過程を 3 段階構成とし、「①政策の社会的意義を理解し、既存の政策に対して既有の知識や経験を基に意見を持つ」「②政策の分析・検討を通して判断基準の多様性に気付く」「③政策の妥当性を多面的・多角的な視点から批判的に考察・判断し、より望ましい政策を構想すること」という流れで単元を設計することで、生徒自身が「政治的リテラシー」の高まりを実感しながら学習活動を進めていくことができると考える。

イ 学習における思考の過程を振り返り、自己内対話を促進させる意見文の型の活用

生徒たちに政治的リテラシーを涵養していく上で欠かせないのは、調べ学習や議論で得た他者の考えについて、自分自身で考え直す時間である。この時間を充実させることで、生徒たちは思考過程の振り返りとして自己内対話を行い、これまで自明とってきたことを立ち止まって再考することができる。本実践では、パフォーマンス課題を行う際に生徒たちに意見文の型（資料）を提示することにした。この型のポイントとしては、「自分の大切にしている判断基準を明確に示させたこと」、「自分の主張・意見への反論を想定して反駁させるようにしたこと」である。これにより、自分がどのような価値観を持って思考する人間なのか自己理解を深めたり、自分の思考と異なる立場からも考えさせることで自己内対話ができる主権者として成長したりすることを目指したい。

- ①現在、「18 歳以下への 10 万円相当の給付」政策には、どのような論争点（対立点）があるか？
 - ②あなたは、その論争点（対立点）について、どのように考え、判断するか？判断するときに、自分が重要視した「判断基準」を具体的に示すこと。
 - ③理由・根拠を示す際は、LOPP に集めた資料等の事実を参考にすること。
 - ④自分の考えに対して反対意見を持つ人から、どのような反論が出そうか。そして、その人にはどのように意見を返すか？
 - ⑤あなたも、あなたに反対意見のある人も、互いに納得できる案があれば提示すること。

※①～⑤の内容にふれる必要があるが、取り上げる順序は自由でよい。

資料 本単元のパフォーマンス課題における意見文の型

ウ 学びを深める LOPP (Loilonote One Page Portfolio) の効果的な活用

OPPA (One Page Portfolio Assessment) は、用紙 1 枚の中に学習前・中・後の学習履歴を記録し、全体を学習者自身に自己評価させる方法である。本研究では、それを紙媒体ではなく、ロイロノートで作成する。ロイロノートを活用した利点は次の二つである。一つは、自分の思考過程の振り返りを効率よく行えることである。調べ学習や議論の中で、自分の意見を記述することはもちろん、他者の意見で参考になったものをロイロノート上であれば記録・編集しやすく、それを活用した自己内対話の促進を図ることができる。二つ目は、資料の収集・整理が容易であることである。インターネットや新聞記事を基に収集した情報を、同時にロイロノート上に集約することで、多面的・多角的な考察・分析を行えるようにしたい。

4 本時の指導（5／6時間）

(1) 主題 政策の妥当性について、よりよい判断基準を探りながら議論しよう。

(2) ねらい

「18歳以下への10万円相当の給付」政策についての議論を通して、自己が持つ判断基準を振り返って認識したり再構成したりしながら政策の妥当性を考察・判断し、自己の意見を表現することができる。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・ 予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価基準（評価方法）
「18歳以下への10万円相当の給付」は、コロナ支援策として妥当な政策だといえるのだろうか？			
1 政策の妥当性についての意見を発表する。 (全体)	15	○今回の給付金政策の妥当性について考えたことを発表しよう。 ・前回と違って給付対象を子育て世代に絞った点は、財政支出の無駄を抑える点でも妥当だと思う。 ・将来のために貯蓄ではなく、今の消費を活性化するためにクーポンを活用するのは効果があると思う。 ・所得制限の方法が現代社会の実態に即したものになっていないのではないかと思う。 ・誰のどんな意見を聞いて今回の対象や所得制限を設けたのか不明確なので、妥当であるとはいえない。	○自己の判断基準について認識、再構成させやすくするために、争点を絞って提示しながら話し合わせる。 ○多面的・多角的な考察を行わせるために、外部の方の給付金に対する考えを例示する。
2 政策を判断するときの判断基準について話し合う。 (小集団→全体)	8	○政策を決定、実施していく上で重要なことは何だろうか？ ・本当に困っている人のことを想定したり、実態を踏まえたりした上で政策を決定すること（他者性） ・短期的な視点だけでなく長期的な視野も持って政策の目的や効果を見定めること（持続可能性） ・現行の制度やしくみが現代社会に合っているものなのか吟味・検討すること（批判的思考）	○多様な基準で政策判断が行えるようにするために、これまでの政策の分析結果などを提示する。
3 より望ましい政策について話し合う。 (小集団→全体)	17	○給付金政策を改善するとしたらどのように改善するか、そのように考える理由は何か？ ・「18歳以下」ではなく、所得に応じて給付対象を決めるべき。なぜなら、年齢では困っている人の把握ができないと思うから。 ・所得制限ではなく、不要な人は給付を「辞退」する制度を設ければよい。誰が必要で不必要なのかを事前に把握することは困難だから。 ・子育て支援を重視するならば、一時の給付金より児童手当の金額を増やす方がよい。その方が子育てしやすい社会づくりにもつながるから。	○見直したり再構成したりした判断基準を活用した意見形成を行わせるために、話し合いで重要視したこと（考え方）を明確に示しながら発表させる。
4 ゲストティーチャーの方の話を聞く。(一斉)	5	○『主権者』として政治や社会問題について判断していくことについて意見を聞こう。	○「主権者」の捉えに広がりを持たせるために、専門家の意見を聞かせる。
5 政策の妥当性について話し合いを通して考えたことをまとめる。 (個人)	5	○これまでの話し合いの内容を振り返りながら、給付金の妥当性について考えたことをまとめよう。 ・限られた財源の使い方として対象者を絞った給付金政策を評価できる部分はあるけれど、本当に困っている人の声を聞き、そこに支援が行き届くのかといわれると疑問が残る。様々な立場の人の声を把握し、長期的な目線で有効性や影響を考えながら政策を決定、実施する必要があると思う。	◎自己が持つ判断基準を振り返って認識したり再構成したりして、政策の妥当性を考察・判断し、自己の意見を表現している。 (ロイロノート)
授業研究の視点		○政策についての他者との議論を通して、自己の判断基準を改めて認識し、洗練させていくような学習過程が、学習者の政治的リテラシーを高めていく上で、効果的であったか。	